

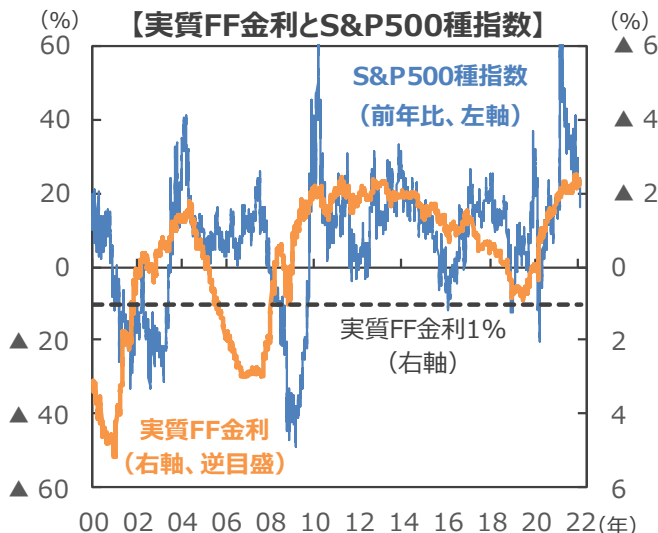


今日のトピック 今後の金融政策と米国株式市場

3月以降は堅調さを取り戻そう

ポイント1 インフレ高進と長期金利上昇
金融引き締めはかなり織り込まれた

- 世界の株式市場は調整色を強めています。今回の調整は、主に米国のインフレ高進、米国の金融政策のタカ派化と長期金利の上昇が背景です。
- 米国の消費者物価は、昨年12月に前年同月比+7.0%と39年ぶりの高い水準となりました。弊社は年後半には同+2%台前半ぐらいに落ち着くと見えています。
- 米国の金融政策については、3月に資産購入の減額（テーパリング）を終了して利上げを開始（3月、6月、12月とそれぞれ0.25%）し、9月からバランスシートの縮小を進めると見えています。利上げの予想は、来年も3回がメインシナリオです。23年末のFF金利は1.75%程度になる見込みです。



00 02 04 06 08 10 12 14 16 18 20 22(年)
 (注) データは2000年1月1日～2022年1月20日。
 実質FF金利=FF金利-期待インフレ率(BE10年)。
 (出所) FactSet, Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント2 実質FF金利が1%までであれば株式市場は落ち着こう
FF金利が大幅に上昇するリスクは低い

- FF金利先物市場も23年末のFF金利を1.75%程度と想定しています。データを振り返ると、インフレ率を考慮した実質FF金利が1%を上回ると株式市場には大きなマイナス要因となっていました。したがって、実質FF金利が1%以下でとどまるとの期待形成になれば、景気や株価に対する懸念は限定的なものになると考えられます。23年以降のインフレ率を2%とすれば、実質FF金利が1%になるにはFF金利が3%となる必要があります。弊社や市場が考える2%以下のFF金利の水準と大きく乖離しており、そこまでFF金利が上昇するリスクは低いと考えられます。

今後の展開 3月以降堅調さを取り戻そう

- 現在の米国株式市場は利上げ局面入りを受け入れる過程にあり、2月頃まで変動率の高い展開となりそうです。まずは来週の米連邦公開市場委員会（FOMC）が注目されますが、3月のFOMCで、インフレの見通しや利上げの進め方、バランスシートの縮小等に対して、ある程度方向性が見えてくれば、足元の不透明感はかなり低下すると思われます。米国株式市場は、3月以降、景気・業績に支えられつつ堅調さを取り戻すと考えられます。

ここも
チェック!

2022年1月19日 日銀の金融政策と日本株のパフォーマンスを検証
 2022年1月18日 2022年の米国のインフレ見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。